

「コロナとの共存、ニューノーマルへの移行を模索」

碓 知子

今年7月に発生したカラオケや魚市場でのクラスターを、外食禁止等の措置で封じ込めていたシンガポール。ワクチン接種率 80%の目標を達成し、コロナと共存しながら経済成長を目指す「ニューノーマル」への移行に徐々に入ろうとしていますが一進一退が続いています。

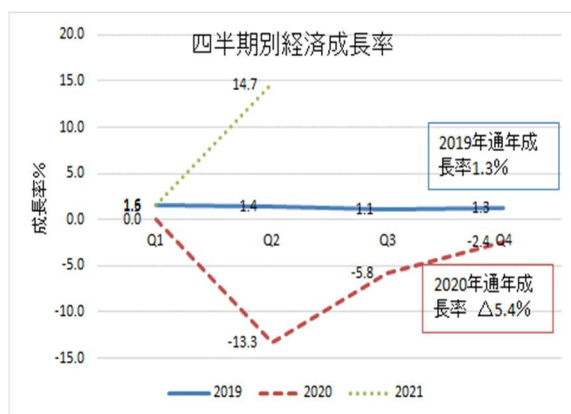
<ワクチン接種者を対象に入国規制も緩和>

シンガポール政府は「ワクチン接種率が 80%に達すれば、コロナとの共存を目指し経済活動は極力制限しない」との方針を掲げていました。その後目標を達成し、8月10日から徐々に規制を緩和しています。禁止されていた外食も、ワクチン接種者に限り5人のグループまで許可されました。ワクチン未接種者はレストランでの外食は禁止ですが、屋台であれば2人まで食事が可能になりました。

海外からの来訪者についても、感染が抑えられている国からは、入国後の隔離なしに来訪できる「ワクチン接種済トラベルレーン (VTL)」が開始されました。フライト搭乗前 48 時間以内の PCR 検査、到着後の PCR 検査（陰性結果が出るまでは自己隔離）、VTL 専用フライトに搭乗すること、等の条件がありますが、2 週間の政府指定ホテルでの隔離がなくなることで、時間的にも経済的にも入国しやすくなります。9月10日現在、対象国はドイツとブルネイで、9月8日に最初の VTL フライトがチャンギ空港に到着しました。

<2021 年の経済成長率は 6~7%を予測>

こうした中、経済成長への期待も高まっています。2021 年第 2 四半期はプラス 14.7%を記録。これは 2020 年第 2 四半期がサーキットブレーカー（シンガポール型のソフトなロックダウン）でマイナス 13.3%成長だったことありますが、貿易産業省による 2021 年の通年経済成長率は、5月21日の予測ではプラス 4~6%だったものを8月11日にプラス 6~7%へ引き上げました。



<デルタ株で感染拡大>

ところが、規制緩和後にデルタ株による感染が8月末から急速拡大しています。そのため、9月

6日には、検査の拡充、感染者と接触可能性のある人への通知等の措置を導入。60歳以上を対象とするワクチンのブースター接種も始まりまし。それでも感染は瞬く間に増え、9月26日には1日の国内感染者数は1,934人となり、この1週間の国内感染者数は10,031人と前週の6,086人を大幅に上回りました。経済へのインパクトが大きい行動制限は極力避けたかった政府ですが、9月27日からは外食人数を2人まで、基本は在宅勤務、等の行動制限が再導入されました。感染状況によってはサーキットブレーカーの再導入も検討するとしています。



<医療体制の見直し>

コロナと共存し、ニューノーマルを目指す上で政府が重視している数字は、重症者数です。幸い、ワクチン接種率が高いため、感染者数が増えても98%は無症状か軽症です。それでも政府は感染者数が3,000人を超えるのは時間の問題で、重症者の増加も避けられないと、警戒を強めています。そのため、医療体制の見直しも始まり、9月中旬からワクチン接種済で無症状、軽症の感染者を自宅療養とすることになりました。持病がなく、家族もワクチン接種済であることなどを条件に、若年層から開始し、50歳までに広げる計画です。自宅療養者には24時間体制の遠隔医療サービスが提供されます。さらに、高齢者等で重症化の恐れのある軽症患者を受け入れるコミュニティケア施設の整備も始まりまし。

<試行錯誤のニューノーマル>

外資による投資や海外とのビジネス活動が、経済の最重要要素であるシンガポールにとって、「安全、安心」を保つことは妥協できません。経済活動への制限を最小限に抑えつつ、感染拡大を封じ込める。政府の難しいかじ取りが続きます。

（注：文中のデータ、施策は9月26日現在）

9月21日~10月11日の期間に配信のオンラインセミナー「海外ビジネス最前線」で、コロナの状況や経済再開後を見越した新たな取り組みを詳しくご紹介しています。